



# 動物レスキュー通信

2013年7月 創刊号 (平成25年6月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

## 日本人の

## 間違った。ペット選び

### ペットショップの歴史

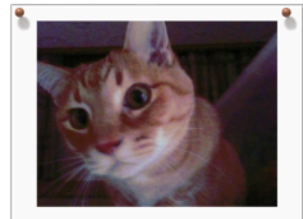
日本では江戸時代末期頃、それまでは一部の大名や商人の贅沢であったペットの飼養が、一般庶民にまで広がり始め、小鳥や金魚などがよく飼われるようになりまし。それに伴い商売として、今で言うペットショップの前身が誕生しました。その後、第二次世界大戦により一旦は終息していたペットブームが、日本経済の発展により、人々に心のゆとりがで始め、ペットを飼う趣味が復活しました。高度経済成長時代に入り、人々は精神的に疲れ果て、癒しと充実感をペットに求め、それがブームとなり海外から多くの動物が輸入され、飼われるペットの種類も多種多様なものとなりました。そのブームは人々が癒されるのと同時に、一方で無責任な飼養やアクセサリー感覚での飼養などの弊害を生じさせる事となったのです。又様々な種類の動物が飼われる事によって情報不足や認識不足から、その動物に適した飼養がされていなかったり、事故や遺棄などの社会問題は浮き彫りになってきたのです。そしてこのブームに乗じたのが、ペットショップやブリーダーで、百貨店で物を売ると同じ感覚で命である生きた動物を展示販売し、悪質ブリーダーによって年々何事も無理やり繁殖させる。というような事が平気で行われている現状です。

もちろん展示販売をするペットショップや異常繁殖させるブリーダーに問題があるの言うまでもありませんが、一方ではそのペットショップ、悪質ブリーダーから買い受ける側にも問題があると思います。私は以前、ペットショップの店員さんをよく知る人物にこんな話を聞いた事があります。「客には抱かせるが勝ち！」そう、誰だつて可愛い子犬、子猫を見て触れて抱かせてもらおうと欲しくなるものです。でもそんな簡単な動機で飼いはじめたいのでしょうか？そしてペットショップには、売り物としては基本的に子犬、子猫しかいません。でもこれは私達が間違った情報を常識としてとらえてしまっているのが原因ではないでしょうか？「犬猫は子犬、子猫から飼いはじめるのが望ましい」とそんな事はありません。これはペット業界の商売のために勝手に植え付けられた常識なのです。

### 間違った常識

阪神淡路大震災の後、公益財団法人日本愛玩動物協会が行った調査で以下の様な結果が出ています。  
阪神淡路大震災の際、被災者の方々の飼っていたペットは様々な事情で新しい飼主の元へと譲渡されて行き

ました。その譲渡された犬猫のほとんどが成犬、成猫だったのです。災害と言う特殊な事情の元での譲渡でしたので、元の飼主さんからの強い要望で、新しい飼主さんへの聞き取り調査が行われました。



た。その際の結果を要約すると①特殊な状況の下で、引き取られたのは成犬・成猫がほとんどであったが、1ヶ月で大部分の動物は新しい環境になじみ、数字的には子犬とほとんど差はなかった。1年後の調査時点では、ほぼ全員が飼主さんが「よくなつている」と答えた。②引き取った動物を飼養する上で困った事が「あった」と答えたのは犬猫ともに60%近くを占めていたが、調査の時点では80%が解決できていた。困った事で一番多かったのは、動物の性格や、以前の飼われ方が分からなかった」ということであった。③先住の犬猫とは6ヶ月後には、ほぼ40%が一緒に遊ぶ事ができるようになっていた。④引き取つてよかったと思っている人が90%以上で、「1つの生命を救う事ができ、よかったと思う」「家族が明るくなった」などがその理由の大半であった。

以上の様な結果からみても、成犬、成猫から飼いはじめる事に何ら問題はないという事がお分かり頂けたと思います。従って、「犬猫は子犬、子猫から飼いはじめるのが望ましい」という、商売ありきの常識はあり得ないという事です。お分かり頂けた事と思います。

詩月財団ではこれからも皆様に、動物に対しての意識改革をして頂けるよう努力してまいります。  
(詩月)